

授業科目	アニマル健康管理学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	34 時間	
科目設置学科	ペットケア総合	開講学年	1 年次	学期	前期・後期
担当教員	岡野昌司		実務経験：動物テーマパーク／飼育員・トレーナー		
授業の概要、科目のねらい、到達目標					
動物の健康管理をテーマに飼育の方法について学習する。					
授業方法・形態	講義	講師			
授業は講義を中心とする。飼育の目的となる『日常管理』をテーマに、世話や消毒の仕方を学ぶ。					

授業計画・内容	
①	飼育の意義と必要性
②	日常管理（環境）自然環境、季節
③	日常管理（観察）元気食欲、体温、脈拍
④	日常管理（観察）体のチェックポイント
⑤	日常管理（観察）日常の世話の注意点
⑥	日常管理（観察）下痢の原因と対処法
⑦	日常管理（観察）嘔吐の原因と対処法
⑧	日常管理（運動）散歩の意義と注意点
⑨	日常管理（運動）犬同士の接触について
⑩	日常管理（衛生管理）消毒の意義と必要性
⑪	日常管理（衛生管理）微生物の分類
⑫	日常管理（衛生管理）洗浄と消毒方法
⑬	日常管理（衛生管理）代表的な消毒薬①
⑭	日常管理（衛生管理）代表的な消毒薬②
⑮	日常管理（衛生管理）効果的な使用方法
⑯	日常管理（餌）餌の種類
⑰	日常管理（餌）給与時の注意点
評価方法	学期末試験の内容と出席状況、受講態度を考慮して成績を評価する。
受講生に対するメッセージ	安全かつ健康的に動物を扱うことを学ぶ『アニマル健康管理学』は、ペット業界では必須の課目となる。正しい知識を得て『やっている』から『できている』にレベルを上げていくことで、プロとしての違いが出てくる。
教科書・参考書・資料・参考文献	教科書、参考書
書名『コンパニオン・アニマルの新健康管理学』 著者：浅野妃美、浅野隆司 出版社：インターズー	

授業科目	グルーミング実習		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	204 時間	
科目設置学科	ペットケア総合	開講学年	1、2 年次	学期	前期・後期
担当教員	片野美咲 実務経験トリミングサロン／トリマー；、中野美幸 実務経験：トリミングサロン／トリマー				
授業の概要、科目のねらい、到達目標					
犬の手入れ方法、シャンプー、ブロー、クリッピングなどを実習で習得する。 トリマーライセンス 3 級の取得を目標にする。					
授業方法・形態	実習	講師			
犬種によって 1～3 名のグループに分かれて作業をする。					

授業計画・内容					
①	道具の説明	⑱	チワワ	ジャックラッセル①	
②	道具の使い方	⑲	ビーグル②		
③	グルーミング作業の説明①	⑳	マルチーズ②		
④	グルーミング作業の説明②	㉑	ミニチュアダックスフンド②		
⑤	グルーミング実践①	㉒	パピヨン	柴犬②	
⑥	グルーミング実践②	㉓	プードル②		
⑦	ビーグル①	㉔	パグ	シーズ②	
⑧	マルチーズ①	㉕	ラブラドルレトリバー②		
⑨	ミニチュアダックスフンド①	㉖	ゴールデンレトリバー②		
⑩	パピヨン	㉗	チワワ	ジャックラッセル②	
⑪	プードル①	㉘	ビーグル③		
⑫	トリマーライセンス 3 級練習	㉙	マルチーズ③		
⑬	パグ	㉚	ミニチュアダックスフンド③		
⑭	ラブラドルレトリバー①	㉛	パピヨン	柴犬③	
⑮	トリマーライセンス 3 級練習	㉜	プードル③		
⑯	トリマーライセンス 3 級練習	㉝	パグ	シーズ③	
⑰	ゴールデンレトリバー①	㉞	ラブラドルレトリバー③		
評価方法	1 つ 1 つの作業の仕上がり及び作業にかかった時間。道具の使い方が正しいか、犬に負担をかけないで作業しているか。自分が何をすればいいのか考えて行動できているか。出席率。				
受講生に対するメッセージ	犬と生活していく上で必要不可欠なグルーミング。初めは慣れない作業に戸惑うがライセンス取得に向け真剣に授業に取り組んでいる。2 年次になると作業に慣れ楽しく授業を進めている。				
教科書・参考書・資料・参考文献					

授業科目	トレーニング実習		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	68時間（合計204時間）	
科目設置学科	ペットケア総合	開講学年	1 年次	学期	前期・後期
担当教員	山内雅史 実務経験：動物テーマパーク／飼育員・トレーナー、岡野昌史 実務経験：動物テーマパーク／飼育員・トレーナー				
授業の概要、科目のねらい、到達目標					
犬のしつけ、訓練全般を実習で習得する。					
授業方法・形態	演習	講師			

授業計画・内容					
①	トレーニング用具の使用方法	⑱	服従訓練基礎（休止）		
②	褒美と罰	⑲	服従訓練基礎（休止）		
③	犬とのコミュニケーション基礎①	⑳	服従訓練基礎（脚側行進）		
④	犬とのコミュニケーション基礎②	㉑	服従訓練基礎（脚側行進）		
⑤	犬とのコミュニケーション基礎③	㉒	服従訓練基礎（脚側行進）		
⑥	犬のケア実践①	㉓	服従訓練基礎（脚側行進）		
⑦	犬のケア実践②	㉔	服従訓練基礎（脚側行進）		
⑧	犬のケア実践③	㉕	服従訓練基礎（特技課題）		
⑨	服従訓練基礎（モチベーター誘導）	㉖	服従訓練基礎（特技課題）		
⑩	服従訓練基礎（モチベーター誘導）	㉗	服従訓練基礎（特技課題）		
⑪	オモチャ遊びと褒美	㉘	服従訓練基礎（特技課題）		
⑫	オモチャ遊び実践①	㉙	訓練課題の行動強化（間欠強化）		
⑬	オモチャ遊び実践②	㉚	訓練課題の行動強化（間欠強化）		
⑭	服従訓練基礎（停座）	㉛	訓練課題の行動強化（間欠強化）		
⑮	服従訓練基礎（停座）	㉜	服従訓練基礎全般の総復習		
⑯	服従訓練基礎（伏臥）	㉝	服従訓練基礎全般の総復習		
⑰	服従訓練基礎（伏臥）	㉞	服従訓練基礎についての実技試験		
評価方法	実習中の積極性と実技試験でのパートナー犬の評価による。				
受講生に対するメッセージ	訓練と犬とのコミュニケーション方法について、実習を通じて学ぶ事ができます。犬と真剣に向き合う事で感覚的な学習も期待できます。				
教科書・参考書・資料・参考文献					

授業科目	ペットビジネス学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	34 時間	
科目設置学科	ペットケア総合	開講学年	2 年次	学期	前期・後期
担当教員	北川智美		実務経験: ペットショップ/ショップスタッフ		
授業の概要、科目のねらい、到達目標					
ペット関連の様々な業種、仕事内容、現状などを学習する。					
授業方法・形態	講義	講師	単独		
この科目ではペット関連の様々な業種を知ると共に、今後の課題についても考えていく。 ロールプレイングを取り入れ、より実践的な講義を行う。					

授業計画・内容	
①	職業を知る①(ペット産業について)
②	職業を知る②(ペット産業の様々なビジネス①)
③	職業を知る③(ペット産業の様々なビジネス②)
④	職業を知る④(ペット産業の様々なビジネス③)
⑤	ペットショップの販売に関する基礎知識①(売り場作り・入口)
⑥	ペットショップの販売に関する基礎知識②(売り場作り・通路)
⑦	ペットショップの販売に関する基礎知識③(売り場作り・ゾーニング)
⑧	ペットショップの販売に関する基礎知識④(売り場作り・ゾーニング・照明・什器)
⑨	ペットショップの販売に関する基礎知識⑤(売り場作り・POPの役割や効果)
⑩	業務に関する専門用語
⑪	生体販売の意義と責任(海外と日本)
⑫	生体販売の業務内容(生体管理)
⑬	接客①(声かけ・会話の組み立て)
⑭	接客②(言葉の選び方・声のトーン・話のスピード)
⑮	接客③(契約・アフターケア)
⑯	接客④(ロールプレイング)
⑰	ペット保険について
評価方法	①出席率・受講態度 ②定期試験結果
受講生に対するメッセージ	急成長しているペット産業の新旧を学び、卒業後に即戦力になる知識・技術を身に着ける。 接客には多くの時間を使い、ロールプレイング等を行い技術習得を目指してもらう。
教科書・参考書・資料・参考文献	教科書
書名: ペットビジネス プロ養成講座 Vol. 1 ペットショップ/著者: 西澤行人/出版社: 株式会社インターズー/出版年 2006 年/入手方法: 一般書店、ネット購入	

授業科目	犬学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	68 時間	
科目設置学科	ペットケア総合	開講学年	1 年次	学期	前期・後期
担当教員	寺崎 修司 実務経験: 動物テーマパーク/飼育員				
授業の概要、科目のねらい、到達目標					
犬の種類、習性、しつけ等について学習する。					
授業方法・形態	講義	講師			
授業は教科書を用いた講義を中心とする。					

授業計画・内容	
①	オリエンテーション、犬学の概要、「人と犬」の歴史について
②	犬種が多くなった理由、犬種による性格の違い
③	初めての犬との接し方、犬の飼育方法
④	高温多湿の季節に増加する皮膚のトラブル、犬の肥満について
⑤	犬の耳の形、尾の形
⑥	雌犬の発情サイクルについて、雄犬の繁殖生理について
⑦	犬の毛質、毛色について
⑧	ワクチンとは、子犬のワクチンワークについて
⑨	犬の正常行動 1
⑩	犬の正常行動 2
⑪	犬のコミュニケーションについて、子犬の行動発達について
⑫	犬の問題行動 1
⑬	犬の問題行動 2
⑭	犬の問題行動の予防と治療 1
⑮	犬の問題行動と予防と治療 2
⑯	ペットショップの生態販売の問題点
⑰	犬の登録について
評価方法	出席状況、受講態度、期末試験の成績にて 出席状況 10%、受講態度 10%、期末試験の成績 80%
受講生に対するメッセージ	犬に関する基礎知識をしっかりと身につけ、将来の職業に役立つ内容を中心に指導していますので、お客様から信頼されるスタッフになってもらいたい。
教科書・参考書・資料・参考文献	教科書
署名:「イラストで見る犬学」監修 林良博 出版社 講談社	
署名:「コンパニオンアニマルの健康管理学」著者 浅野妃美・浅野隆司 出版社 インターブー	

授業科目	動物管理学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	34 時間	
科目設置学科	ペットケア総合	開講学年	1 年次	学期	前期・後期
担当教員	北川 智美		実務経験: ペットショップ/ショップスタッフ		
授業の概要、科目のねらい、到達目標					
動物を飼養する場所の管理について学習する。					
授業方法・形態	講義	講師	単独		
この科目では、動物の基本的な飼養方法を学び、適正飼養とは何かを身に着ける。					

授業計画・内容	
①	排泄物の異常(排尿)
②	排泄物の異常(排便)
③	与えてはいけないもの①
④	与えてはいけないもの②
⑤	熱中症①(日射病・熱射病・原因)
⑥	熱中症②(症状・応急処置・予防・多発犬種)
⑦	フィラリア症①(フィラリア症とは・犬糸状虫のライフサイクル)
⑧	フィラリア症②(症状・治療・予防・)
⑨	ワクチン①(混合ワクチン)
⑩	ワクチン②(狂犬病ワクチン)・狂犬病予防法
⑪	外部寄生虫①(ノミ)
⑫	外部寄生虫②(マダニ)
⑬	内部寄生虫①(線虫類/回虫・鉤虫・鞭虫)
⑭	内部寄生虫②(条虫類/瓜実条虫・マンソン裂頭条虫)
⑮	内部寄生虫③(原虫類/コクシジウム・トリコモナス・ジアルジア)
⑯	感染症(形態・感染経路)
⑰	滅菌法と消毒法
評価方法	①出席率・受講態度 ②定期試験結果
受講生に対するメッセージ	動物の異変に早く気づくには、豊富な知識と観察力が必要になる。 異変に気付いてから調べるのではなく、危険を回避する予防についても理解を深めて貰いたい。
教科書・参考書・資料・参考文献	教科書
書名: コンパニオン・アニマルの新・健康管理学/著者: 浅野妃美・浅野隆司/出版社: 株式会社インターズー 出版年 2014 年	

授業科目	動物飼養管理学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	68時間	
科目設置学科	ペットケア総合	開講学年	1年次	学期	前期・後期
担当教員	八尾 敦		実務経験: 動物テーマパーク/飼育員		
授業の概要、科目のねらい、到達目標					
動物に関連する法律、動物と人間の歴史、動物の飼養方法などを学習する。					
授業方法・形態	講義	講師			
授業は指定教本を用いた講義を中心とする。動物分野を幅広く学び、将来の就職に役立てる人材育成を目指す。また愛玩動物飼養管理士2級資格の取得を目指す。					

授業計画・内容	
①	愛玩動物飼養管理士とは
②	動物の適正飼養相談
③	動物観 西洋～東洋
④	人と動物の関係学
⑤	動物の愛護及び管理に関する法律1
⑥	動物の愛護及び管理に関する法律2
⑦	動物の愛護及び管理に関する法律3
⑧	動物の愛護及び管理に関する法律4
⑨	動物の愛護及び管理に関する法律5
⑩	関連法規
⑪	動物の体と仕組みについて
⑫	健康増進と疾病予防
⑬	衛生管理
⑭	動物の飼養管理 犬・猫他
⑮	動物の飼養管理 小鳥・小動物他
⑯	動物の飼養管理 爬虫類他
⑰	資格試験対策
評価方法	出席状況、ミニテスト、期末試験の成績、課題レポート、受講態度を考慮して評価。
受講生に対するメッセージ	動物を扱うものとして、幅広い知識と意識を持つことは不可欠です。人と動物の関係という広い視野で学び、社旗に役立てる人材になってほしい。
教科書・参考書・資料・参考文献	教本
書名:「愛玩動物飼養管理士2級教本 1・2巻	

授業科目	動物社会学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	68時間	
科目設置学科	ペットケア総合	開講学年	1、2年次	学期	前期・後期
担当教員	小寺 智也		実務経験:動物テーマパーク/飼育員・トレーナー		
授業の概要、科目のねらい、到達目標					
社会の中での動物の役割、扱いなどを学習する。					
授業方法・形態	講義	講師			
近年人と犬はますます密接な関係になっており、飼い主は犬に対し人間社会に適応させるように指導していく必要がある。そのためにはまず飼い主の方が先に犬社会のルールを理解しておかなければならない。この科目では一般飼い主が犬を飼う上でしつけ面や健康面、マナーなど最低限必要な部分を講義する。					

授業計画・内容					
①	人と犬の歴史	⑮	妊娠と去勢、発情		
②	犬の種類と特徴	⑯	しつけの必要性		
③	犬の体力と能力	⑰	優秀な家庭犬		
④	犬を取り巻く環境	⑱	叩くことの弊害		
⑤	病気と怪我の発見	⑲	食べ物で教えることの弊害		
⑥	フィラリア症	⑳	群と序列		
⑦	ドッグフードの選び方	㉑	犬の性格		
⑧	食べ物の与え方	㉒	幼犬期の特徴		
⑨	散歩	㉓	トイレトレーニング		
⑩	ブラッシング	㉔	手入れとしつけ		
⑪	爪切りと歯磨き	㉕	無駄吠えのやめさせ方		
⑫	糞尿の始末	㉖	飛びつき癖のやめさせ方		
⑬	放し飼い	㉗	拾い食いの直し方		
⑭	無駄吠え	㉘	我慢させること重要性		
⑮	飛びつき癖	㉙	叱らなくてもいいのに叱る		
⑯	抜け毛の処理	㉚	犬の相性		
⑰	犬同士の喧嘩	㉛	多頭飼いの注意		
評価方法	定期試験の結果、出席状況、受講態度				
受講生に対するメッセージ	この授業を受講した学生がいずれ就職先などで一般の飼い主様からの質問に対し適切にアドバイスができる立派な「愛犬相談員」を目指してもらいたい。				
教科書・参考書・資料・参考文献					

授業科目	動物繁殖学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	34 時間	
科目設置学科	ペットケア総合	開講学年	1 年次	学期	前期・後期
担当教員	北川智美		実務経験: ペットショップ/ショップスタッフ		
授業の概要、科目のねらい、到達目標					
犬の繁殖、ブリーディングについて体系的に学習する。					
授業方法・形態	講義	講師	単独		
この科目では、一般的なコンパニオンアニマルである犬・猫を中心に講義を行う。 それぞれの繁殖生理を理解し、動物種による違いを学ぶ。					

授業計画・内容	
①	繁殖とは
②	生殖とその分類
③	生殖器の分類と仕組み①(雄の生殖器)
④	生殖器の分類と仕組み②(雌の生殖器)
⑤	生殖活動に関連するホルモン
⑥	性成熟と発情周期①(犬/周年繁殖動物)
⑦	性成熟と発情周期②(猫/季節繁殖動物)
⑧	排卵(自然排卵と交尾排卵)
⑨	自然交配と人工授精
⑩	妊娠(妊娠期間・妊娠診断)
⑪	分娩①(出産準備・出産兆候)
⑫	分娩②(自然分娩)
⑬	分娩③(難産の徴候と対策)
⑭	分娩④(帝王切開)
⑮	出産後の母犬の管理・新生子の管理
⑯	先天異常(形態的な奇形・遺伝性疾患)
⑰	避妊と去勢
評価方法	①出席率・受講態度 ②定期試験結果
受講生に対するメッセージ	一般的なコンパニオンアニマルである犬や猫の繁殖生理を理解するという事は、望まない繁殖を防ぐ事にも繋がる。ペットオーナーに説明出来るように理解を深めて貰いたい。
教科書・参考書・資料・参考文献	参考資料/必要に応じて資料を配布
書名: 最新版 愛犬の繁殖と育児百科/著者: 小川雄一/出版社: 株式会社誠文堂新光社/出版年: 2013 年 書名: 犬の繁殖と育児がわかる/著者: 小川雄一/出版社: 株式会社誠文堂新光社/出版年: 2010 年 入手方法: 一般書店、ネット購入	

授業科目	猫学	実務経験のある教員等による授業科目			
必修・選択	必修	時間数	34 時間		
科目設置学科	ペットケア総合	開講学年	1 年次	学期	前期・後期
担当教員	北川 智美	実務経験: ペットショップ/ショップスタッフ			
授業の概要、科目のねらい、到達目標					
猫の種類、習性、飼い方等について学習する。					
授業方法・形態	講義	講師	単独		
この課目では講義を中心に行うが、実習という形で実際に猫に触れ、犬との違いを学んでいく。					

授業計画・内容	
①	猫の起源
②	習性と生態①(単独行動・捕食性行動)
③	習性と生態②(排泄行動・マーキング行動)
④	習性と生態③(グルーミング)
⑤	五感①(聴覚・視覚・嗅覚)
⑥	五感②(味覚・触覚)
⑦	体の仕組み①(歯・爪・肉球)
⑧	体の仕組み②(皮膚・被毛・筋肉・骨格)
⑨	体の仕組み③(実習)
⑩	繁殖①
⑪	繁殖②
⑫	かかりやすい疾患①(尿石症)
⑬	かかりやすい病気②(腎不全)
⑭	栄養管理
⑮	猫の種類①(ボディタイプ)
⑯	猫の種類②(カラー・コート)
⑰	猫の種類③(人気猫種)
評価方法	①出席率・受講態度 ②定期試験結果
受講生に対するメッセージ	年々飼育数が増えてきている猫について講義と実習で犬との違いなど、正しい知識を身に付けて貰いたい。
教科書・参考書・資料・参考文献	教科書
書名: イラストでみる猫学/著者: 林良博/出版社: 株式会社講談社/出版年: 2011年	

授業科目	繁殖学実習		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	34 時間（合計 102 時間）	
科目設置学科	ペットケア総合	開講学年	2 年次	学期	前期・後期
担当教員	寺崎修司 実務経験：動物テーマパーク／飼育員、北川智美 実務経験：ペットショップ／ショップスタッフ				
授業の概要、科目のねらい、到達目標					
犬の交配、出産などの管理を実習で習得する。					
授業方法・形態	実習	講師			
つくばわんわんランドの飼育場、産室、子犬展示館等を用いての自習を中心とした授業とする。					

授業計画・内容					
①	子犬展示犬舎での実習 1	⑮	子犬の離乳食実習 4		
②	子犬展示犬舎での実習 2	⑯	子犬の離乳食実習 5		
③	子犬展示犬舎での実習 3	⑰	子犬のシャンプー実習 1		
④	子犬展示犬舎での実習 4	⑱	子犬のシャンプー実習 2		
⑤	犬の交配実習 1	⑲	子犬のシャンプー実習 3		
⑥	犬の交配実習 2	⑳	子犬のシャンプー実習 4		
⑦	犬の交配実習 3	㉑	子犬のシャンプー実習 5		
⑧	犬の交配実習 4	㉒	子犬のシャンプー実習 6		
⑨	犬の血統書申請 1	㉓	子犬のパピートレーニング 1		
⑩	犬の血統書申請 2	㉔	子犬のパピートレーニング 2		
⑪	子犬の授乳実習 1	㉕	子犬のパピートレーニング 3		
⑫	子犬の授乳実習 2	㉖	子犬のパピートレーニング 4		
⑬	子犬の授乳実習 3	㉗	子犬のパピートレーニング 5		
⑭	子犬の授乳実習 4	㉘	子犬のパピートレーニング 6		
⑮	子犬の離乳食実習 1	㉙	総合実習 1		
⑯	子犬の離乳食実習 2	㉚	総合実習 2		
⑰	子犬の離乳食実習 3	㉛	総合実習 3		
評価方法	出席状況、受講態度、習得技量を考慮して成績を評価する。 出席状況 10%、受講態度 10%、習得技量 80%				
受講生に対するメッセージ	技術習得のための実習を多く実施し、しっかりと技術を身に付けることができるので、自身を以て仕事に生かして欲しい。				
教科書・参考書・資料・参考文献					

授業科目	繁殖学実習		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	68時間（合計 102 時間）	
科目設置学科	ペットケア総合	開講学年	1 年次	学期	前期・後期
担当教員	寺崎修司 実務経験：動物テーマパーク／飼育員、北川智美 実務経験：ペットショップ／ショップスタッフ				
授業の概要、科目のねらい、到達目標					
犬の交配、出産などの管理を実習で習得する。。					
授業方法・形態	実習	講師			
つくばわんわんランドの飼育場、産室、子犬展示館等を用いての実習を中心とした授業とする。					

授業計画・内容					
①	オリエンテーション	⑱	子犬の授乳実習 2		
②	犬に慣れる 1 散歩など	⑲	子犬の授乳実習 3		
③	犬に慣れる 2 ブラッシングなど	⑳	子犬の授乳実習 4		
④	犬に慣れる 3 耳掃除など	㉑	子犬の離乳食実習 1		
⑤	犬に慣れる 4 爪切りなど	㉒	子犬の離乳食実習 2		
⑥	犬舎掃除実習	㉓	子犬の離乳食実習 3		
⑦	犬のケージ洗い、組み立てを学ぶ	㉔	子犬の離乳食実習 4		
⑧	犬の交配シミュレーション	㉕	子犬の離乳食実習 5		
⑨	犬の交配 1	㉖	子犬のパピートレーニング 1		
⑩	犬の交配 2	㉗	子犬のパピートレーニング 2		
⑪	犬の交配 3	㉘	子犬のパピートレーニング 3		
⑫	「隔離」飼育のシミュレーション	㉙	子犬のパピートレーニング 4		
⑬	「隔離」飼育を学ぶ 1	㉚	子犬のパピートレーニング 5		
⑭	「隔離」飼育を学ぶ 2	㉛	子犬のパピートレーニング 6		
⑮	「隔離」飼育を学ぶ 3	㉜	総合実習 1		
⑯	「隔離」飼育を学ぶ 4	㉝	総合実習 2		
⑰	子犬の授乳実習 1	㉞	総合実習 3		
評価方法	出席状況、受講態度、習得技量を考慮して成績を評価する 出席状況 10%、受講態度 10%、習得技量 80%				
受講生に対するメッセージ	実際の子犬を使用した実習を十分に経験できるため、とておも良い技術が身に付くので、自身を以て仕事に生かして欲しい。				
教科書・参考書・資料・参考文献					

授業科目	スタンダード学	実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修	時間数	102 時間	
科目設置学科	ペットケア総合	開講学年	1、2 年次	学期
担当教員	長澤 茂 実務経験: 出張訓練所/トレーナー			
授業の概要、科目のねらい、到達目標				
犬種についての原産、特長、標準体型などを学習する。				
授業方法・形態	講義	講師		
犬全般の体の仕組みや犬種の特徴を学ぶことで、トレーニング・トリミング実習を行う際にも役立つ知識を得ることを目的とする。				

授業計画・内容				
①	教科書の見方 (犬種の索引方法など)	⑱	スタンダード (歴史・特徴他)	ビーグル
②	犬体名称 (イラスト作成、犬を使用し確認)	⑲	〃	パピヨン
③	骨格名称 (イラスト作成)	⑳	〃	M. シュナウザー
④	犬の歯の種類と役割	㉑	〃	ダックスフンド①
⑤	噛み合わせのタイプと該当犬種	㉒	〃	ダックスフンド②
⑥	グループ名称と特徴 (第1～3グループ)	㉓	〃	ラブラドルレトリバー
⑦	〃 (第4～6グループ)	㉔	〃	ゴールデンレトリバー
⑧	〃 (第7～10グループ)	㉕	〃	コーギー
⑨	耳と尾のバリエーション (イラスト作成)	㉖	〃	シーズー
⑩	断耳と断尾の目的と該当犬種	㉗	〃	バグ
⑪	犬の被毛の種類と役割	㉘	〃	柴
⑫	犬の毛色パターン	㉙	〃	プードル①
⑬	犬の原産国	⑳	〃	プードル②
⑭	犬の団体、血統証について	㉑	〃	マルチーズ
⑮	ドッグショーの概要	㉒	〃	チワワ
⑯	〃 の審査基準と流れ	㉓	〃	ボーダーコリー
⑰	〃 のDVD鑑賞	㉔	〃	アメリカンコッカースパニエル
評価方法	授業態度と出席状況、前後期筆記試験			
受講生に対するメッセージ	犬の体の仕組みや犬種のスタンダードについて学び、その知識を実際に犬を扱う際にも役立てて欲しい。卒業後は犬を飼う予定の人や飼い主の相談に、適切なアドバイスができるように。			
教科書・参考書・資料・参考文献				
最新犬種図鑑 写真で見る犬種とスタンダード/樹インターズー				